

医療法人名南会 第59回定時総会特集号

第59回定時社員総会のご案内

法人定款第20条の規定による「医療法人名南会 第59回定時社員総会」を開催いたしますので
ご通知申し上げます。

2022年4月 医療法人名南会
理事長 三宅 隆史

●日時：2022年5月28日(土)

■開場・受付開始 午後1時30分

■総会議事 午後2時～4時

(新型コロナウイルス感染症対策により総会議事を短時間で
行う場合があります。)

■場所 金山・労働会館
東館2Fホール

名古屋市熱田区沢下町9-7
地下鉄・JR・名鉄線金山総合駅下車、東口から徒歩10分



第574号(部内資料)
(毎月1回、1日発行)

発行
医療法人 名南会
名古屋市南区豊田
五丁目15番18号

発行責任者
小岩 朋宏
☎052-692-2388

2021年度の各事業所の活動のふりかえり

名南病院

2021年度の名南病院は「もっとも困難な人たちをチームで何とかする病院」をビジョンに掲げ、事業活動を進めてきました。

1 入院医療：新型コロナ感染症の感染拡大を受け、6月21日にコロナ陽性患者さんの入院受入を開始しました。友の会、かかりつけ患者さん、名古屋市、保健センターからの依頼に応え、2021年度は65名のコロナ陽性患者さんを入院受入、段階的に病床を4床に増床しました。第6波の1月末から約1ヶ月間は、受入指定病床の4床を大幅に超える陽性患者さんが入院、1日に最大で13名の方が入院されました。コロナ受入病棟である4階病棟だけでなく、全病棟で感染対策を徹底しながら、地域のニーズに応えるため、コロナ陽性患者さんの受入を行いました。医師・看護師をはじめとする全病棟スタッフの頑張りは誇りです。第7波を睨み、3月17日には愛知県にコロナ入院受入病床を6床に増床する申請を行いました。



名南病院のコロナ治療

入院患者さんの高齢化が急速に進むも、地域包括ケア・退院支援・在宅復帰支援の強化

を目指し、退院した後も在宅で安心して生活できるように、入院時に退院目標を設定するための多職種カンファレンスを開始しました。

2 外来医療：発熱外来を月曜日から土曜日まで設置しました。直接来院される方も含めると、ピーク時は1日30名以上の方が連日受診されました。外来でのPCR検査数は約3,500回、陽性者の判明は500名を越えました。行政からの依頼で、自宅療養中の陽性者の受診48件、往診5件、外来での抗体療法施行など、限られた施設と体制の中で、受診できずに重症化してしまうケースが地域で発生してしまわないように、課題もありますが、職員一丸となって最大限の努力を行いました。コロナワクチンは予約開始当初は混乱とご迷惑をお掛けしましたが、4,931回の接種を行いました。

主治医が慢性疾患管理、運動や食事などの生活習慣、服薬状況、健診・予防接種、介護保険の管理・相談まで、病气から生活全般を支える「かかりつけ医診療」を継続して行っています。名南病院への通院に関わる困難をサポートするとりくみとして、職員による送迎も3年目を迎え、通院から在宅・往診へシフトされる方への対応も行っています。

地域のニーズもあり、訪問リハビリを大幅に強化しました。2021年度末で管理数は37名となり、年度当初から約2倍となり、そこから新規患者さんや入院につながるケースも増えてきています。

2022年度はかかりつけ機能の更なる強化、総合内科と新マンモグラフィシステムでの乳腺外来、乳がん検診を強化していきます。

3 医師の確保と養成：「法人医師確保プロジェクト」は常勤医師採用を目標に面談を強化してきました。今年度は新たな常勤医師1名を迎え、2022年度も1名の常勤医師の採用が決まっています。愛知民医連の初期研修プログラムに

もとづいて3名の研修医が糖尿病研修を行いました。コロナ禍もあり、中止や受入できないこともありましたが、大学の学外実習、愛知民医連奨学生等、医学生実習を継続して受け入れました。

4 地域組織活動：地域訪問行動はコロナ禍もあり、電話訪問も含めて計6回実施、のべ29名が参加し、14件の対話ができました。資金募集運動は、新マンモグラフィシステム導入チラシや外来ディスプレイでの訴えを行いました。コロナ禍で外来行動が制限されたこともあり、4,000万円の年間目標を達成することができませんでした。「街かどなんでも相談会」(いのちの相談所)を3ヶ月に1度のペースで継続開催し、弁護士、看護師、MSWが参加、地域の方の相談を受けています。相談会は中日新聞やラジオ等で広報を行いました。

5 地域連携：近隣病院、開業医、施設等に訪問・懇談を実施、新たに在宅専門診療所との強化型在宅医療協力医療機関に関する協定を締結しました。21年度の無料低額診療事業利用者はのべ184件、新規承認は約36件となりました。若年層のインターネットを通じた相談が増加していますが、2020年度から引き続き利用者数が減少しており、さらに地域に目を向けた活動が必要です。

6 経営活動：2021年度の年間利益目標(5,531万円)の達成に向けて、全職員への経営情報の発信を行い、コロナ関連の補助金もあり、2021年度は予算を大幅に超過する経常利益を確保することができました。

めいなん新聞は通常一世帯一部でお届けさせていただいていますが、今回は「総会特集号」のため社員、名南会協同基金協力者のおひとりおひとり一部ずつお届けさせていただきます。

名南ふれあい病院 介護医療院名南ふれあい病院 名南介護老人保健施設 かたらいの里 ヘルパーステーションきずな

(2021年度活動のまとめ)

2021年度は新型コロナウイルス感染症から入院・入所者を守るための感染対策やコロナワクチン接種に注力してきました。しかし、1月中旬から2月末にかけて病院および施設においてクラスターが発生してしまいました。感染力の高いオミクロン株であったため感染は瞬くうちに広がってしまい感染を収束させるのにかなりの労力を必要としました。職員が感染し勤務が組めない、入院患者さん・入所者さんで感染した方は急性期病院において病床がひっ迫しているため入院の受入がしてもらえないという状況で、中には重症化した方もいらっしゃいました。職員は疲弊していくなかでも力を結集し団結の力で感染を収束させることができ、患者さん、入所者さんの療養生活をなんとか守ることができましたが国のコロナ施策には疑問が残ります。コロナワクチンは当院患者さんおよび地域住民に対し接種を行いました。発熱外来は開設していましたが当院への受診は少なかったです。

医療・介護活動の前進としては、名南ふれあい病院の看護師が名南会で初めての「摂食嚥下障害看護認定看護師」となりました。回復期リハ棟で摂食嚥下に関する取り組みがさらに進められることとなります。かたらいの里は4月より在宅復帰・

在宅療養支援の超強化型老健となりました。老人保健施設の求められている役割を最大限に発揮していると評価されます。われわれの目指すリハビリテーションと介護で地域での生活を支えることがまた一歩進んだと言えます。

組織活動は地域の方々がコロナウイルスで不安や困難を抱えて生活をする中、「なんでも相談会」を偶数月に開催し様々な悩み事をお聞きし不安の解消、問題の解決の力になってきました。

コロナ禍の中、地域組織活動は困難を極めました。毎月開催の健康教室は中止を余儀なくされわずかな回数しか開催できませんでした。その中でも新たに大磯学区での健康教室を開催することができました。今後、共同組織を拡大していこうと考えている地域での開催は大きな意味を持つと考えます。また、かねてから要望のあった呼続方面への通院送迎を8月より開始することができました。利用者はまだまだ少ないですが高齢とってきている共同組織の方にとって、交通手段が限られる当院への通院はこれにより非常に便利になり



大磯学区で初めての健康教室

数名の感染にとどまってはいますが、本人が陽性でなくても介護サービスが止まってしまう、退院・退所ができない等患者さんの療養環境への影響は少なからずみられています。コロナ禍であっても、変わらず療養生活が継続できるよう今後も対応していきます。「依頼は断らない。対応は迅速に」を基本に今後も新規受入を継続していきます。外来は4・5月の2ヶ月間、水曜日が休診となりましたが、地域からの要望があり医師の体制確保ができたため、6月から再開することが出来ました。受診者が10月以降前年を下回ることが続いていましたが、健診では担当者を中心とし積極的に声かけをおこない、年間目標で掲げていた特定健診280件・大腸がん検診200件を達成することができました。

居宅介護支援事業所も地域の皆様の介護相談にも柔軟に対応できるよう努め、いきいき支援センターからの相談もコンスタントにあり、110件以上の件数を維持することが出来ました。要支援の方から要介護の方までどんな小さな介護相談にも対応できるよう2022年も努めていきます。

通所リハビリは、住み慣れた地域で生活を続けて行くことを目標に、今できる事を少しでも長く維持し、利用者様それぞれに役割も持って頂く事を大切にしています。コロナ禍で困難な部分がありますが、皆様楽しく、生き生きと過ごしていただけるよう、感染予防と併せて今行えるケア・サービス提供をしていきます。

デイサービス庵では、ガイドラインに基づいた感染対策を行い、クラスター発生する事無く通常営業をすることができました。名南診療所と協力して、デイサービス利用中にコロナの予防接種を行いました。短時間利用の受入れは、現在も管理数の約20%が利用されています。コロナ禍ではイベントや行事の中止・縮小を余儀なくされましたが、2022年度も閉じこもり防止・日常生活の活

おおいに喜ばれています。今後も通院送迎を利用される方を増やしていきたいと思えます。協同基金は共同組織の方達とふれあう場が少ないにもかかわらず4,500万円を超えるご協力を頂きました。われわれふれあいグループへの期待の表れと受け取り、ますます地域のニーズに添えていかなくてはと感じています。

経営は困難な状況が生まれました。新規の患者さん、利用者さんの獲得がなかなかできていないこともあり、外来や訪問通所サービス、老人保健施設の利用が減少したことが要因のひとつです。最も影響が大きかったのはコロナの院内クラスター発生です。入院・入所制限やリハビリの中止が収益に大きく影響し、感染対策上必要な支出も増大し、経営に大きなダメージを受けました。

(2022年度活動方針)

2022年度は利用の拡大(患者さん、利用者さんの確保)に力を入れます。共同組織の拡大は利用の拡大につながると考え、地域に対してふれあいグループの役割、存在を大きくアピールしていきます。また病院機能評価を更新する年度であり、9月にはサーベイヤーの審査を受けます。それまでに確実に準備を進め、医療の質、安全性の向上を図る活動を推進していきます。感染対策の向上もそのひとつです。コロナ感染を経験した施設として、今後このようなことが再度起こらないように最大限の対策を講じていきます。

またロシアのウクライナ侵攻を目の当たりにしたことで人の命を奪う戦争に改めて反対をし、現在の平和憲法を守る活動をしていきます。

名南診療所 デイサービス庵 訪問看護ステーションきずな

名南診療所は名南会の2病院(名南病院・名南ふれあい病院)、老健かたらいの里、ヘルパーステーションと連携し、予防医療や急性期治療から在宅介護サービスまで、地域の方の生活の多くの場面に関わりながら医療・介護活動を行っています。地域の皆様の【住み慣れたおうちで暮らし続けたい】という思いに寄り添うために、敷地内には訪問看護ステーションきずな、居宅介護支援事業所、通所リハビリ、デイサービス庵もあり、在宅療養のサポートに力を入れています。

また名南診療所は「在宅療養支援診療所」として365日24時間対応の体制で、体が不自由で通院が困難な方、人工呼吸器や点滴・経管栄養の管理、褥瘡ケア、がん末期を含むターミナル管理から看取りまで、さまざまな医療管理を必要とする方々の在宅療養を法人内外の医療機関や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などの関係機関と協力してサポートしています。

2021年度は【～在宅で暮らす地域の方々の生活を守るため～“3つのん(にんち・えんげ・かんわ)”をテーマにして、寄り添っていこう】をキーワードに、各事業所でそれぞれ目標を掲げて活動してきました。新型コロナウイルス感染症拡大が第5・6波とある中で、市の通達を連日確認しながら訪問診療・外来でのワクチン接種、発熱外来を継続してきました。訪問診療患者さんは現在

性化を目標に、障害のある高齢者にとって楽しい・居心地の良いデイサービス創りに務めていきます。

訪問看護ステーションきずなは、ワクチン接種が開始となり感染者が減少する時期もありましたが、年度後半の第6波では感染力の強いオミクロン株の蔓延により、感染対策の徹底強化を強いられ、職員の出勤が制限される事態となりました。そうした状況でも、スタッフから感染者を出すことなく活動を継続することができました。その結果、昨年度を上回る新規受け入れと訪問件数を伸ばすことができ、収益増加。目標であった経営の安定化に繋げることができました。



訪問看護の様子

地域組織活動は、緊急事態宣言等により思うように活動できませんでしたが、訪問行動は友の会支部役員の方々と8回実施(なんでも相談室のチラシ配布を含む)、「なんでも相談室」は4回実施し、始めは相談者がありませんでしたが12月開催の相談室には相談3名、健康チェック5名、食材配布1名の来院がありました。協同基金はコロナ禍により班会での呼びかけは出来ませんでしたが、各事業所・部所での直接の声かけやチラシ配布を行いました。年間の目標協力金額の1,000万円は達成することができませんでしたが、多くの方にご協

力をいただき800万円を超える結果となりました。内田橋トスカで開催されていた「健康ひろば」での健康体操や健康チェックの活動は感染拡大防止のため休止が続いており、活動ができずとても残念でした。2021年度はコロナ禍で思うように進めら

れなかった休診日(火曜日)の活用を2022年度はかたちにしたいと思います。

名南診療所はどんな些細な事でも何か困った事があった際に、「そうだ!ととりあえず診療所に相談してみよう!」とお願いいただける診療所を目指し

2022年度も法人内・法人外の様々な事業所・友の会の皆様と連携・協力しながら、地域の方々の健康と生活を支えていきます。

中川診療所 有料老人ホームひなた ヘルパーステーションひなた

外来診療では、一般診療の他に発熱外来の継続、そして新型コロナウイルスのワクチンが始まりました。発熱外来については、地域の方や、保健センター、救急医療情報センターからの受診依頼があれば、多くの方が受診できるよう体制を整えてきました。その結果PCR検査(抗原含む)は、174件行いました。当診でコロナ陽性と判断された方のフォロー依頼があれば、外来診療、電話診察を行う

事もありました。医師、看護師を初めとした職員の奮闘で昨年度より収益を増やすことができました。また、新型コロナワクチンの対応については地域の方々へ大変ご迷惑をお掛けしましたが、最終的には、1、2、3回目合わせて2,807回の接種を行う事ができました。名南会に受診歴がない方でも接種していき、中川区以外の天白区方面、蟹江方面からも接種にいられました。

また今年度は、通所リハビリ、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーションひなたの介護系で前進がありました。

通所リハビリでは、1日利用者数を下半期から増やすことに成功し、2021年度の利用者数は、16.9名となりました。昨年度は、14.0名でしたので、2.9名も増やすことができました。1か月1件の新規契約を目標にしてきた事がよかったと思います。また、収益に関しても2021年度の介護報酬改定で減収になると考えていましたが、実際には、予算よりも500万円ほど多く収益を出す事が出来ました。2月に職員の新型コロナ感染が発生しましたが、他の職員、利用者さんが陽性になることなく、無事営業することができました。

居宅介護支援事業所も、利用者数を増やすことができ、増収となりました。昨年よりも170件以

上多い件数となりました。職員の人員は昨年から変更はありませんが、これだけの件数があったという事は、心をこめて対応した職員の努力の結果であったこと、地域の期待に応えることができたと思います。

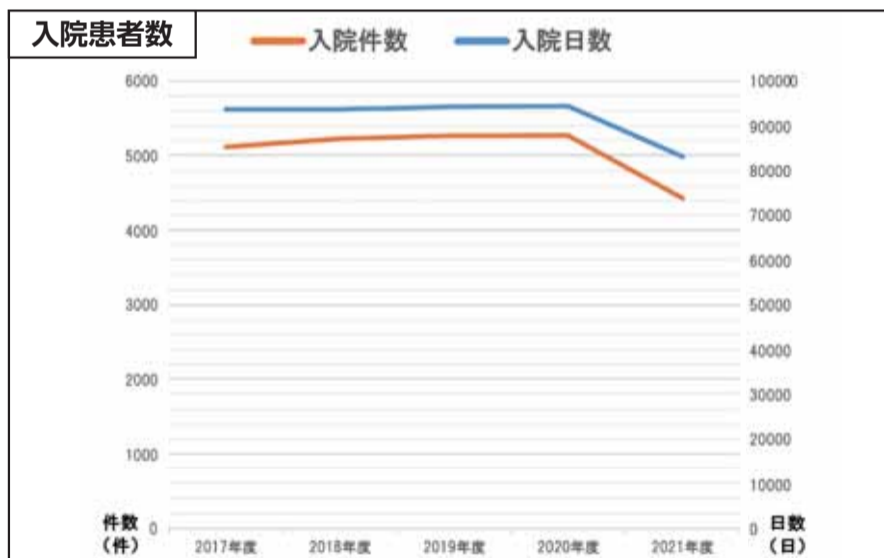
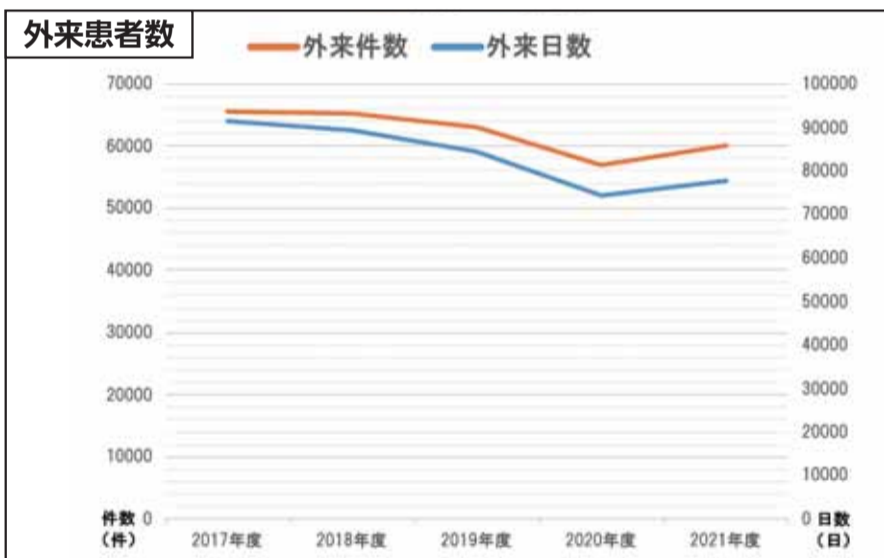
ヘルパーステーションひなたも、利用者数を増やすことができ、ほとんどの月で収益予算を達成しました。援助の依頼が多く、下半期には全ての事業所からの依頼に応えることができませんでした。途中、職員を増員して収益を更に増やすことが出来ました。

有料老人ホームひなたは、年度始めに退去される方が続き、満室状態を維持することができませんでしたが、下半期には満室にすることができました。今現在、満室になっていても赤字経営になってしまう施設ですが、他の事業所は今年度収益を増やすことができました。

どの事業所も、感染症対策をしっかり行い、クラスター発生なく通常営業出来たこと、職員の頑張りによって収益を増やすことが出来たこと、2021年度は中川診療所グループにとって、とても実りのある1年だったと思います。



友の会で「コロナワクチン問診票」記入の援助



法人3事業所の入院の合計(名南病院・名南ふれあい病院・介護医療院名南ふれあい病院)
※2021年度は、6月よりコロナ病床(1~6床)確保のため、入院病床10床~21床を休床としたため、件数・日数ともに大幅減少となりました。



※2021年度は、コロナ病床確保に伴う入院病床休床のため、名南病院入院収益が大幅減少となりました。(休床確保補助金により収入補填あり)

医療法人名南会 2022年度方針

2021年度は、新型コロナウイルスの感染拡大が繰り返し継続する大変困難な一年となりました。年明け以降、オミクロン株の爆発的な急拡大が進み、新規感染者数は昨年夏の「第5波」を大きく超える状況が続いています。名南会の各事業所の発熱外来には、連日多くの患者さんが来院しています。地域の医療機関でも対応困難な状況が広がり、行政機関に問い合わせしたところ名南会の事業所を紹介されたというケースもありました。多くの患者さんが自宅療養を迫られる中で、往診要請などにも積極的に応えてきました。昨年6月に新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関の指定を受けた名南病院では、これまでに60例を超える入院を受け入れてきました。コロナ禍で社会的・経済的な困難さが増大するも、各地域で事業所と友の会の共同による「なんでも相談会」や訪問行動を実施し、友の会では企業や諸団体とも連携しフードパントリーのとりくみを進めてきました。高齢化が急速に進む中で、友の会が町内会などと共同してとりくんできた「買い物支援」は大変好評で、中日新聞にも大きく報じられました。すべての事業所で感染対策を強化し、医療・介護活動を進めるとともに、友の会や地域の様々な団体とも共同して安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます。

岸田政権は、昨年秋の総選挙で改憲勢力が衆議院の3分の2を超えたことを受け、臨時国会の所信表明演説で「憲法改正」を盛

り込むなど、9条改憲への強い執念を示しています。安倍・菅政権による9条改憲を断念させた運動を確信に、地域での世論・運動を強めていくことが重要です。政府は昨年「全世代型社会保障改革関連法」を可決し、後期高齢者医療の窓口負担2割化の対象拡大や介護保険料の負担増・利用制限などを進めようとしています。新型コロナウイルスの感染拡大で「医療崩壊」が現実のものとなったにも関わらず、病院統廃合、病床削減、医師養成数の削減などを進めようとしています。人権と公正の視点でのいのちとケアが大切にされる社会の実現をめざしていきます。ロシアはウクライナに軍事侵攻を開始し、多数の死傷者が発生しています。ロシアの侵略行為に断固抗議し、ウクライナからただちに撤退することを強く求めます。昨年1月、核兵器禁止条約が発効し、核兵器が国際法によって違法化される新たなステージに入りました。日本政府に対して、条約への署名・批准を求める運動を強めていきます。

2022年度は第8次長期計画(2020～2022年度)の最終年度です。困難な情勢だからこそあらゆる活動に「民医連綱領」の立場をつらぬき、経営と管理の改善を進めていくことが重要です。医師をはじめとする職員の確保と育成を強化し、第9次長期計画の議論を進め、今後の名南会の展望をつくり出していきます。



2022年度の重点課題方針

① 事業所での感染対策を徹底し、患者・利用者さんと職員を守り抜き、「人権の砦」としてコロナ禍の医療・介護活動を発展させていきます

感染対策を今年度の最重要課題として、各事業所での発熱外来やワクチン接種、名南病院での新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関としての対応などを進めていきます。多職種による「協働」と地域での多様な「連携」を強めていきます。社会的処方推進し、ソーシャルワーク機能を発揮していきます。

③ 経営と管理の改善を進め、第8次長期計画にもとづく毎月の予算達成を重視し、今後の名南会の展望をつくり出していきます

名南会の事業・経営は地域住民が安心して暮らし続けられるために存在しています。経営と管理の改善を一体のものとして「全職員での経営」をつらぬき、第8次長期計画にもとづく毎月の予算達成を重視します。政府・自治体への経営を守るたたかいを強めていきます。第9次長期計画策定に向けた検討を進めていきます。

⑤ 医師をはじめとした職員確保を強め、民医連綱領と民医連総会方針を確信に職員育成と職場づくりを進めていきます

医師、看護師をはじめとした職員の確保と育成を一層強化していきます。職員のいのちと健康をまもり、働き方の改善を進めていきます。民医連総会運動方針学習と「職員育成指針 2021年度版」の実践を進めていきます。第9次長期計画に向けて次代を担う役員・管理者の育成を重視します。

② 平和憲法を守り抜き、人権と公正の視点で、いのちとケアが大切にされる社会の実現をめざします

岸田政権は9条改憲へ強い執念を示しています。事業所・友の会での憲法学習を強めながら「憲法改悪を許さない全国署名」を広げていきます。人権としての社会保障実現に向けて「新しいち署名」をはじめ、75歳以上の医療費窓口負担2割化の中止、国民健康保険の改善、高すぎる窓口負担の軽減、生活保護制度改善、外国人への医療保障の改善に向けた運動を進めていきます。参議院選挙、県知事選挙、地方選挙での要求の前進に向けてとりくみを強めていきます。

④ コロナ禍だからこそ名南会と健康友の会の共同を大きく広げ、無差別・平等の地域包括ケアと安心して住み続けられるまちづくりを進めていきます

コロナ禍のもとで貧困と社会的孤立が広がっています。コロナ禍だからこそ声をかけあい、地域で孤立させないとりくみ、居場所づくり・なんでも相談所活動、フレイル予防や健康づくりを積極的・創造的に進めていきます。地域総合サポートセンター(仮称)の設置を検討します。友の会会員拡大、協同基金募集、健診運動をそれぞれ目標を持って強めていきます。

2021年度 地域組織活動

安心して住み続けられるまちづくりと無差別平等の地域包括ケアの実現めざして。コロナ禍でこそ名南会と健康友の会の共同を広げ、居場所づくり・いのちの相談所活動でまちづくりを進める。

【はじめに】 2020年2月より拡大した新型コロナウイルス感染症対策のもとで、この2年間地域組織活動が今までのようにできない中、感染対策を行った上で、コロナ禍でこそ地域で求められる活動をすすめてきました。地域では、見えない貧困と外出・活動自粛に伴う高齢者の孤立化と身体能力の低下が進行しています。コロナ禍において、仲間の絆と連帯・共同という民医連の共同組織の役割が今本当に求められています。サロン活動、相談活動や助け合い事業などへの期待が高まる中、今期は①全事業所での「なんでも相談所」活動と子ども食堂(フードパントリー)、②スタンプラリーの実施と居場所づくりとたまり場での活動拡大、③緑区や天白区、事業所地域支部毎での支部を中心とした活動が特徴的でした。

① 「地域の健康づくり」の運動を事業所と共同組織(友の会)が一体となってすすめてきました

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診、乳がん検診を重点検診とし、各事業所で年間目標を決め、地域での健康づくりのとりくみをすすめました。

特定健診(友の会健診)、大腸がん検診・乳がん検診を重点に、「名南会健康推進委員会」を中心に友の会各地域支部との共同のとりくみとして、地域で健康づくりを広げる活動にとりくみました。特定健診(友の会健診)、がん検診(大腸・乳・胃)は前年実績を上回り、大腸がん検診は年間目標を達成しました。名南診療所・中川診療所は、特定健診と大腸がん検診の事業所目標を達成する成果がありました。

昨年度より始めたバースデー健診の定着拡大をめざし、前年度受診者への確実な働きかけを行いながら、健診を広げる工夫を行いました。

② 各事業所・地域ごとに目標をもった資金募集運動では、引き続き多くの社員・友の会員の方に協力をいただき、1億円を超える(4年連続年間1億円超)協同基金が寄せられました。

“名南会協同基金は、差額ベッドのないよりよい病院、施設を支える大切な力”と職員、共同組織の共同でとりくみました。コロナ禍により、外来や病棟での訴え・地域訪問行動などが制限される中でも、年間で3回のキャンペーン月間に取り組みました。年度末月間では“名南病院のマンモグラフィーの更新”に向けた資金協力を特に訴えました。各事業所で「設備や医療機器を充実させ、よりよい病院・診療所づくりを協同基金で支えてください」との訴えを強める中、年間目標には届きませんでした。1億円を超える協同基金への協力を得ることができました。

③ 新しい友の会(名南会健康友の会)が発足しました。友の会員の要求を出発点に、友の会らしい仲間づくり・健康づくりの活動が広がっています。地域に交流の場・居場所づくりをすすめ、民医連事業所と友の会が共同して、安心して住み続けられるまちづくりと無差別平等の地域包括ケアの実現をめざしました。

7月10日、名南・中川健康友の会が組織統合、新しい友の

会(名南会健康友の会)が発足し、より幅広い地域での支部づくりと支部を基礎とした活動づくりにより質・量とも前進できる友の会を目指しました。

コーヒーサロン、お食事サロン、ゆめっこ広場(子育てサロン)、認知症カフェ、中川診療所のサロン(なかしんさん)などは、いずれも活動を制限せざるをえない状況でした。

地域の中の拠点となるたまり場づくりとして、大磯・豊田・わいわい広場・伝馬・中川ひなたの「ボッチャサロン」は、地域の新たな交流と健康づくりの場となっています。

ほんわか食堂は五周年を迎え、コロナ禍の中、フードパントリーと活動の形を変え定期的に開催、自治体・町内会などとも連携と多くのボランティアの協力で、活動は大きく広がっています。

コロナ禍における活動として、全日本民医連提起の『いのちの相談所』活動を「なんでも相談所」として4事業所すべての地域で、顧問弁護士、ケースワーカー・看護師など職員と友の会の共同で定期的に行ってきました。

安心して暮らせるまちづくり、高齢者の見守り、生活支援活動が今まで以上に求められています。「お助けプロジェクト」は、ゴミ出し、掃除、通院送迎、公共住宅での住民清掃支援などの利用希望に応じてきました。中川地域では、買い物支援プロジェクトを町内会とも共同ですすめています。



名南会健康友の会発足総会



ほんわか食堂5周年・フードパントリーにて



なんでも相談所
道徳通わいわい広場



中川地域での買い物支援

4 平和、くらしを守るとりくみ～みんなで学んでみんなで行動～。憲法改悪を許さないとりくみ、名古屋の国保と介護保険改善、75歳以上高齢者負担増反対、社会保障制度の拡充などの運動に全力で取り組みました。

私たちは何よりも「いのちと平和」を大切に、「貧困化」など困難が広がる地域に寄り添い、誰もが医療を受ける権利(生存権・受療権)を守ります。職員と健康友の会が「名南会 社保平和委員会」として、これらの運動に共同で取り組んでいます。

平和行進、原水爆禁止世界大会、3・1ビキニデー、各種全国集会などが活動規模制限となる中、要請に応えたオンラインでの取り組みなどに積極的に取り組んできました。毎月9と19日の両病院社保平和委員会を中心としたスタンディング行動を継続してきました。愛知民医連に結集し、名古屋市国保・敬老パスや名古屋市厚生院の特別養護老人ホームの存続を求める運動に取り組めました。「憲法改悪反対」の運動は、学習、宣伝でのアピール、署名で最も重点的に取り組みました。しかしながら、コロナ禍で対面・対話に制約があり、思うように十分な署名活動には取り組めませんでした。

憲法署名597筆、75歳2割化反対署名594筆、名古屋市国保421筆、名古屋市厚生院296筆、核兵器禁止条約批准署名1350筆でした。



3月3日名南病院職員のスタンディング行動

5 名南会健康友の会は9,342名の会員数となりました。友の会は、会員相互の交流を通じて生きがいや居場所づくりとしての「たまり場」を拠点に活動を広げました。会員の要求把握や安心のための訪問行動を重視し、会員拡大・班増やしに取り組みました。

友の会員拡大は、あらゆる活動の中で意識的に目標をもって取り組み367名の友の会員を増やすことができました。近年は自然減(死亡・転居等)が多い中、年間で28名の会員純増となったことは成果です。



小幡緑地ウォーキング (ふれあい支部)

域支部では健康ウォーキングにほぼ毎月取り組み、毎回多くの参加となっています。呼続地域での2年ぶりとなる「健康まつり」には参加者の20名以上が友の会員外で、地域の「人とつながりたい」という願いに応えるものとなりました。

友の会緑支部は支部結成から4年、緑区鳴海町にみ

んなの力で『たまり場(みどりの広場)』を開所し1年となります。大高班が新たに増え6班となり、たまり場の活用も「平和企画」や「3カ月に1回の健康チェックデー」、趣味のサークル活動など大きく広がりました。天白区にも新たに高坂班が誕生しました。

名南病院地域支部では全戸訪問(港区木場地域団地群、

氷室荘など)を実施、友の会員や事業所利用者以外の地域の方との対話で地域の状況や病院への要望などを把握することができました。外来行動など対面での活動が制限される中、「コロナ禍だからつながりを」と友の会員への電話かけや病院玄関前での声かけ行動なども取り組まれました。



南区・大磯健康教室 (名南ふれあい病院)

感染状況に注意しながら、地域での取り組みを少しずつ再開してきました。各地域では、班会や教室、友の会員が増えてきています。また、ふれあい病院地



南区・呼続健康まつり

域支部では全戸訪問(港区木場地域団地群、氷室荘など)を実施、友の会員や事業所利用者以外の地域の方との対話で地域の状況や病院への要望などを把握することができました。外来行動など対面での活動が制限される中、「コロナ禍だからつながりを」と友の会員への電話かけや病院玄関前での声かけ行動なども取り組まれました。

また、11月には、東築地学区で

医師による糖尿病講座をメインに34名参加で地域懇談会を開催しました。また、大磯学区でも初めて健康教室を開催し15名の参加がありました。



名南病院地域支部 電話かけ行動

また、11月には、東築地学区で医師による糖尿病講座をメインに34名参加で地域懇談会を開催しました。また、大磯学区でも初めて健康教室を開催し15名の参加がありました。